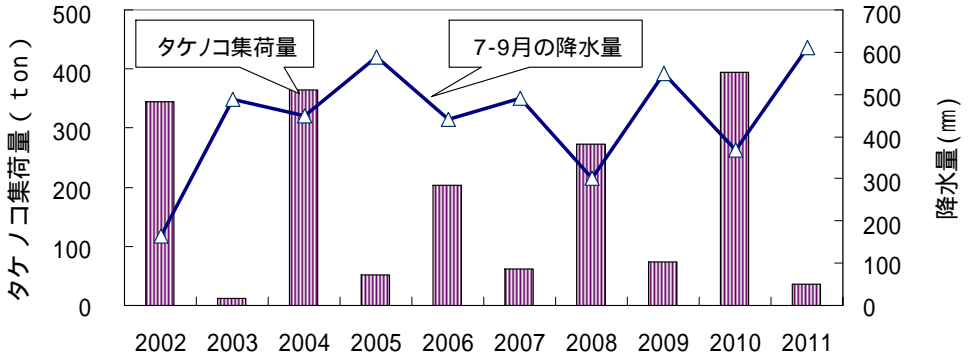


6 林 業

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 来春のモウソウチクタケノコ収量予想</p>	<p>(今月の作業のポイント) モウソウチクの伐竹による密度管理</p> <p>9月23日高松气象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の平均気温は、平年並みまたは高い確率の見込みである。引き続きこまめな水分補給を心がけ作業を実施すること。</p> <p>愛媛県の竹林面積は、4,100haで全森林面積の約1%を占め、大洲市、松山市、宇和島市、内子町、今治市の5市町で、県全体の竹林面積の約58%を占める。この竹林の大部分はモウソウチク林で、タケノコ生産のため管理されてきましたが、輸入タケノコによる価格の低迷や竹製品の代替品の普及等により放置され、周辺のスギ・ヒノキ林に拡大するなど問題となっている。モウソウチク林を活用することは、資源の循環利用や地域の活性化の面からも有効であることから、タケノコ生産を前提としたモウソウチク林の管理方法を紹介する(写真1、2)。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="497 999 916 1312"> </div> <div data-bbox="995 999 1414 1312"> </div> </div> <p>写真1 放置されたモウソウチク 写真2 管理されたモウソウチク</p> <p>粗放に管理された(=親竹の竹齡管理がされていない)モウソウチク林でのタケノコの収量は、一般的に1年ごとに豊凶を繰り返している。</p> <p>また、タケノコの発生には年間2,000mm以上の降水が望ましいといわれている。特に地下茎や芽子(タケノコの芽)が伸長する7~9月やタケノコ発生期の3月下旬から5月の降水は重要で、タケノコの発生量に影響を与えとも言われている。</p> <p>図1は、タケノコ集荷量と、7~9月の降水量(いずれも松山市、過去10年間)との関係を示したものである。豊凶が1年毎に明確に現れ、降水量の影響が強いことがわかる。</p> <p>今年の7~9月の降水量(9月21日現在)は、平年よりも多くなっており(表1)、また2012年は表年にあたることから、2012年春のタケノコ発生量は多いと予想される。</p>

項 目	作 業 内 容																																								
(2) 伐竹による密度管理	 <p data-bbox="603 638 1114 667">図 1 松山市のタケノコ集荷量と降水量の関係</p>																																								
	<p data-bbox="507 750 893 779">表 1 松山市の過去 5 年間の降水量</p> <table border="1" data-bbox="507 788 1465 1003"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>平年値</th> <th>2006年</th> <th>2007年</th> <th>2008年</th> <th>2009年</th> <th>2010年</th> <th>2011年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7</td> <td>192</td> <td>272</td> <td>389</td> <td>209</td> <td>330</td> <td>268</td> <td>172</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>90</td> <td>73</td> <td>33</td> <td>70</td> <td>139</td> <td>5</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>130</td> <td>96</td> <td>69</td> <td>23</td> <td>82</td> <td>97</td> <td>(362)</td> </tr> <tr> <td>7～9月計</td> <td>412</td> <td>440</td> <td>490</td> <td>302</td> <td>551</td> <td>370</td> <td>(611)</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="545 1008 1082 1037">気象庁気象統計情報。(注)2011年は、9月21日現在。</p>	月	平年値	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	7	192	272	389	209	330	268	172	8	90	73	33	70	139	5	77	9	130	96	69	23	82	97	(362)	7～9月計	412	440	490	302	551	370	(611)
	月	平年値	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年																																	
	7	192	272	389	209	330	268	172																																	
8	90	73	33	70	139	5	77																																		
9	130	96	69	23	82	97	(362)																																		
7～9月計	412	440	490	302	551	370	(611)																																		
<p data-bbox="430 1153 1497 1236">タケノコ生産を目標としたモウソウチク林の施業には、伐竹と親竹の仕立てと施肥等がある。</p> <p data-bbox="430 1249 1497 1433">施肥は、タケノコの発生量の増加や品質の向上に効果があるが、経費がかかるため、まず立竹密度と竹齢管理を行なうことが望ましい。竹林の立竹密度管理は、伐竹作業であり、10月～2月に行う。また竹齢管理により、タケノコ収量の豊凶の差が小さくなり、収量が安定する。</p> <p data-bbox="430 1447 1497 1579">モウソウチク林の目的別の立竹本数は表2のとおりで、タケノコを少ない手間で生産しようとするれば、タケノコ・竹材兼用林～竹材専用林程度の密度での管理が望ましい。</p> <p data-bbox="430 1592 1497 1680">なお古い竹は、古い地下茎につながっており、タケノコを発生させる力が弱いため6年を越える古い竹から優先して伐竹するよう心掛けること。</p>																																									
<p data-bbox="558 1713 949 1742">表 2 モウソウチク林の一般的構造</p> <table border="1" data-bbox="558 1751 1385 2022"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>タケノコ専用林</th> <th>タケノコ・竹材兼用林</th> <th>竹材専用林</th> <th>放置竹林</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胸高直径 (cm)</td> <td colspan="4">7～11cm (個体最大値：15cm)</td> </tr> <tr> <td>平均稈長 (m)</td> <td colspan="4">10～15m (個体最大値：17m)</td> </tr> <tr> <td>立竹本数 (本/ha)</td> <td>1,500</td> <td>3,000</td> <td>5,000</td> <td>9,000</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1050 2042 1508 2078">(作成 林業研究センター)</p>	目的	タケノコ専用林	タケノコ・竹材兼用林	竹材専用林	放置竹林	胸高直径 (cm)	7～11cm (個体最大値：15cm)				平均稈長 (m)	10～15m (個体最大値：17m)				立竹本数 (本/ha)	1,500	3,000	5,000	9,000																					
目的	タケノコ専用林	タケノコ・竹材兼用林	竹材専用林	放置竹林																																					
胸高直径 (cm)	7～11cm (個体最大値：15cm)																																								
平均稈長 (m)	10～15m (個体最大値：17m)																																								
立竹本数 (本/ha)	1,500	3,000	5,000	9,000																																					